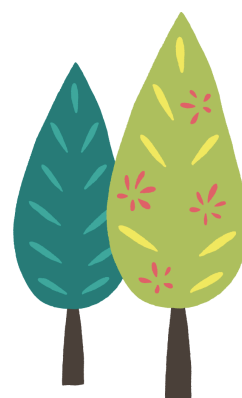


## 目次

2023年度高圧ガス容器全国一斉特別回収結果報告	1
HySTRA見学研修実施	3
賛助会員 —東洋電化工業株式会社—	5
令和5年度補正省エネ補助金の概要および省エネ法・定期報告情報の開示 制度について	7
2024年賀詞交歓会開催	10
ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2023年12月15日~2024年2月15日掲載—	11
新事務局員の紹介	13
気ままにコラム	14



## 2023年度高圧ガス容器全国一斉特別回収結果報告

2023年10月1日～10月31日に全溶連およびJIMGA会員企業の皆様にご協力いただき、長期停滞容器、放置容器、不明容器について 41,829か所を訪問し回収した結果を報告いたします。

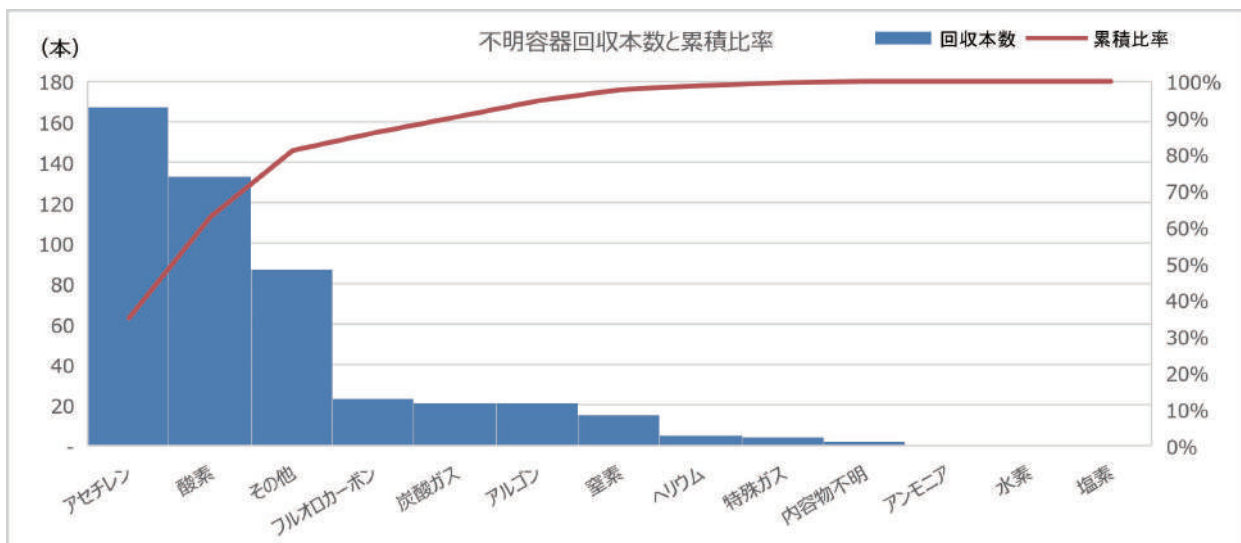
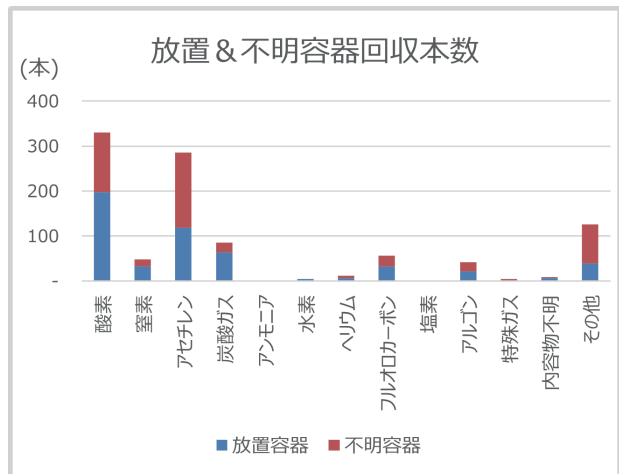
回収本数は24,746本で、そのうち長期停滞容器が23,743本、放置容器が525本、不明容器が478本でした。

ガス種別の内訳、回収場所、エリア別回収本数および2010年度からの年度別回収本数は以下のとおりです。

### 1. ガス種別集計

(本)

	放置容器	不明容器	放置&不明
酸素	197	133	330
窒素	33	15	48
アセチレン	119	167	286
炭酸ガス	64	21	85
アンモニア	-	-	-
水素	4	-	4
ヘリウム	7	5	12
フルオロカーボン	33	23	56
塩素	1	-	1
アルゴン	21	21	42
特殊ガス	-	4	4
内容物不明	7	2	9
その他	39	87	126
計	525	478	1,003



## 2. 不明容器 ガス種別回収場所

(本)

回収場所	解体・建設現場	河川・山林	公道・公園	湾岸・海岸	容器置場(消費者)	容器置場(ガス業者)	その他(駐車場他)	合計	10L以下容器							
酸素	31	4	1	5	71	7	14	133	52							
窒素	1	1	-	-	12	1	-	15	5							
アセチレン	62	7	-	3	74	12	9	167	46							
炭酸ガス	3	1	-	3	9	5	-	21	11							
アンモニア	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
水素	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
ヘリウム	1	-	-	-	3	-	1	5	-							
フルオロカーボン	10	-	-	5	7	-	1	23	4							
塩素	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
アルゴン	9	-	-	-	8	2	2	21	14							
特殊ガス	4	-	-	-	-	-	-	4	-							
ガス名不明	-	1	-	-	-	-	1	2	1							
その他	16	4	-	2	47	9	9	87	46							
<b>2023年度合計</b>	<b>137</b>	<b>29%</b>	<b>18</b>	<b>4%</b>	<b>1</b>	<b>0%</b>	<b>18</b>	<b>4%</b>	<b>231</b>	<b>48%</b>	<b>36</b>	<b>8%</b>	<b>37</b>	<b>8%</b>	<b>478</b>	<b>179</b>
2022年度合計	133	32%	1	0%	1	0%	17	4%	222	54%	10	2%	30	7%	414	154
2021年度合計	89	15%	22	4%	0	0%	28	5%	397	65%	40	7%	32	5%	608	172
2020年度合計	83	13%	15	2%	2	0%	3	0%	424	66%	50	8%	68	11%	645	202
2019年度合計	72	13%	15	3%	3	1%	17	3%	297	55%	72	13%	63	12%	539	136
2018年度合計	163	29%	26	5%	13	2%	22	4%	225	40%	87	15%	33	6%	569	125
2017年度合計	195	25%	36	5%	7	1%	26	3%	339	43%	89	11%	89	11%	781	193
2016年度合計	209	23%	49	5%	14	2%	18	2%	330	37%	205	23%	76	8%	901	188
2015年度合計	104	23%	11	2%	3	1%	22	5%	211	46%	45	10%	58	13%	454	106

## 3. エリア別回収本数

(本)

都道府県	放置+不明			長停容器			不明のみ		
	2023年度	2022年度	前年比	2023年度	2022年度	前年比	2023年度	2022年度	前年比
北海道	23	21	2	1,497	1,266	231	16	0	16
東北 計	12	4	8	1,664	2,451	-787	1	0	1
関東 計	290	105	185	5,347	12,500	-7,153	210	71	139
北陸 計	14	18	-4	312	686	-374	0	10	-10
東海 計	39	114	-75	4,100	5,105	-1,005	8	37	-29
近畿 計	450	590	-140	2,385	2,326	59	122	135	-13
中国 計	87	99	-12	1,651	1,359	292	71	66	5
四国 計	64	105	-41	1,333	1,292	41	39	50	-11
九州 計	24	57	-33	5,454	8,663	-3,209	11	45	-34
合計	1,003	1,113	-110	23,743	35,648	-11,905	478	414	64

## 4. 年度別放置及び不明容器回収本数

	放置及び不明	不明のみ	不明率
2010年度	1,806	513	28.4%
2011年度	1,634	525	32.1%
2012年度	1,778	522	29.4%
2013年度	1,592	403	25.3%
2014年度	1,394	387	27.8%
2015年度	1,528	454	29.7%
2016年度	2,878	901	31.3%
2017年度	1,410	781	55.4%
2018年度	2,297	569	24.8%
2019年度	1,736	539	31.0%
2020年度	1,870	645	34.5%
2021年度	1,291	608	47.1%
2022年度	1,113	414	37.2%
2023年度	1,003	478	47.7%
平均	1,666	553	33.2%

詳しくは下記もご覧ください。  
 ▽ 放置容器を発見したときは  
[https://www.jimga.or.jp/business/houchi\\_youki/](https://www.jimga.or.jp/business/houchi_youki/)



(企画・事業グループ事務局 山本 卓也)

## HySTRA見学研修実施

超低温貯槽ワーキンググループ (WG) 7名 (11月17日)、水素技術ワーキンググループ (WG) 16名 (12月8日) がコロナ禍以来、久しぶりに見学研修会として神戸市にある、HySTRAの水素実験施設の一部の液化水素貯蔵・陸揚げ施設を見学しました。

### HySTRAとは

HySTRAは、2016年に設立された、技術研究組合CO2フリー水素サプライチェーン研究機構です。NEDOの助成を受け、豪州と日本におけるパイロット水素サプライチェーンの実証事業を行っています。

オーストラリアで褐炭から製造した水素ガスを、液化し日本へ液化水素として海上輸送し日本で液化水素の荷役作業を行うというサプライチェーンの中で、

- ・褐炭ガス化技術
- ・液化水素の長距離大量輸送技術
- ・液化水素荷役技術

についての技術を実証実験しています。




### 見学施設

今回、見学させていただいたのは、荷役作業を行うローディングアームシステム（液化水素を船舶から陸揚げする装置）、液化水素貯蔵タンク（2,500m<sup>3</sup>直径19mの真空二重構造球形）および関連施設です。

残念ながら、両日とも液化水素運搬船「すいそふろんていあ」は、施設外にメンテナンスのため、出航しており実際の姿を見ることはできませんでした。

実証実験としては、すでに2022年からオーストラリアで製造された液化水素を液化水素運搬船「すいそふろんていあ」で輸送、陸揚げを行っており、その後もさまざまな実験と実施しています。また、HySTRAはHSEマネジメントシステムを導入しており、HSE、すなわち健康(Health)・安全(Safety)・セキュリティ(Security)・環境(Environment)を重視して無事故・無災害を継続しています。



WG委員の方々は水素への関心が高く、見学中は積極的に質問されていました。HySTRAの方々には業務中にも関わらずご説明いただき、また質疑応答に懇切丁寧に応じていただき、有意義な研修見学会になりました。

HySTRAの角山所長をはじめスタッフの皆様には、ご多用のところご対応いただき、本当にありがとうございました。

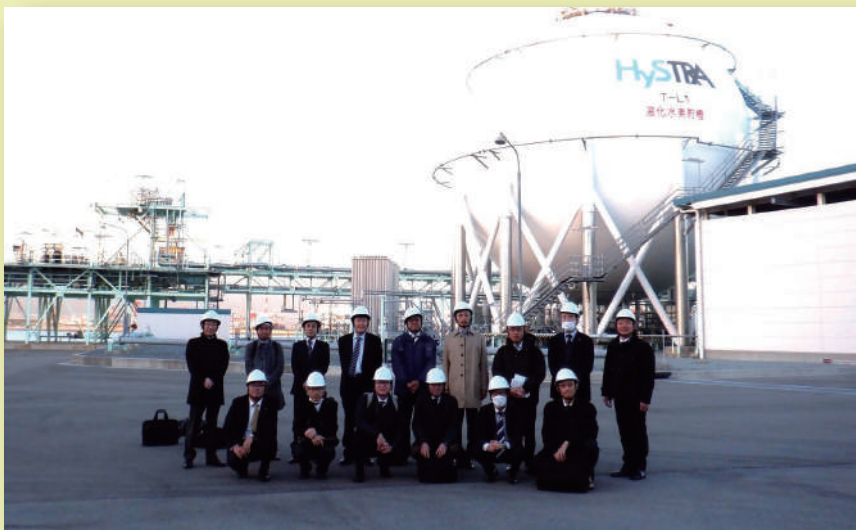
HySTRAについて詳しくは、以下をご覧ください。

HySTRAとは - HySTRA : <https://www.hystra.or.jp/about/>

(超低温貯槽WG・水素技術WG 事務局 田中 克幸)



超低温貯槽WG (11月17日)



水素技術WG (12月8日)

## 賛助会員 —東洋電化工業株式会社—

### 沿革

当社は、1919年（大正8年）土佐電化工業株式会社として創業し、1956年（昭和31年）大手化学メーカーとの資本提携に伴い「東洋電化工業株式会社」へ社名変更し、現在に至っています。

100年を超える歴史の中で製造品目は移り変われども、中間原料メーカーとして高品質な製品をご提供することによって日本の産業を素材で支え続けてきました。



本社入口

### 事業について

100年を超える長い歴史の中で、現在は4つの事業を展開しています。主力事業である「特殊アロイ事業」は、自動車や工作機械などの鑄鉄・製鉄製品に使用される添加剤の製造・販売を行っています。

また、高炉メーカー向けの原料を海外から輸入・販売する「商事事業」、創業時から製造しているカーバイドやリン酸カルシウムなどを製造・販売する「化成品事業」に加え、「資源再生事業」では、限りある資源の有効活用を図り、循環型社会に向けた事業展開を行っています。

カーバイドは、主に金属の溶接・切断に用いられる溶解アセチレンの原料として、また製鉄・鑄鉄の脱硫剤としても活躍しています。

高知県は不純物の少ない良質な石灰石に恵まれ、江戸時代から土佐石灰として一大産地をなしてきました。地場資源を活かし、郷土に貢献できることは私たちの誇りです。



カーバイドの製造の様子



## 今後について

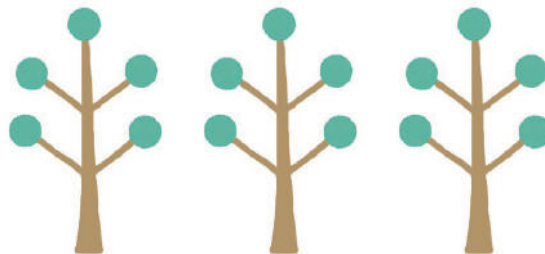
素材に命を吹き込む一瞬一瞬が日本のものづくりに未来への可能性を広げていくと信じて、長年の経験で培った技術力とお客様目線での研究開発力を融合させた新たなご提案をすることで、これからも日本の産業と共に進んでまいります。

また、当社は伝統に安住することなく日々構造改革に取り組んでまいります。次の100年に向けて東洋電化工業の挑戦は続きます。

(東洋電化工業株式会社 営業本部化成品営業部 部長 西中 竜也)



東洋電化工業株式会社 URL : <https://www.toyodenka.co.jp/>



## 令和5年度補正省エネ補助金の概要および省エネ法・定期報告情報の開示制度について

資源エネルギー庁より省エネ対策および定期報告情報の開示制度について以下のとおり情報共有依頼がございました。ご確認ください。

### 1. 令和5年度補正予算によるエネルギーコスト上昇に対する省エネ支援パッケージ（経済対策）

#### ① 省エネ設備への更新支援

※全類型において複数年の投資計画に切れ目なく対応する仕組みを適用

(I) 工場・事業場型：生産ラインの入れ替えや集約、工場・事業場全体で大幅な省エネを図るものを補助

- ・生産ラインの更新等、工場・事業所全体で大幅な省エネを図る
- ・省エネ効果の要件

省エネ率+非化石割合増加率：10%以上

省エネ量+非化石使用量：700kl以上

エネルギー消費原単位改善率：7%以上

- ・補助金率：1/2（中小企業等）以内 1/3（大企業・その他）以内  
※先進設備の場合 2/3（中小企業等）以内 1/2（大企業・その他）以内
- ・補助上限額：15億円 ※非石化転換の要件を満たす場合は20億円

(II) 電化・脱炭素燃料型（新設）：脱炭素につながる電化や燃料転換を伴う設備更新を補助

- ・電化や、より低炭素な燃料への転換を伴う機器への更新を補助
- ・省エネ効果の要件

電化・脱炭素目的の燃料転換を伴うこと

- ・補助率：1/2以内
- ・補助金上限額：3億円 ※電化のための機器の場合は5億円

(III) 設備単位型：リストから選択する機器への更新を補助

- ・業務用給湯器、高効率空調、産業用モータ等で予め定めたエネルギー消費効率等の基準を満たし、補助対象設備として登録および公表した指定設備を導入
- ・省エネ効果の要件

予め定めたエネルギー消費効率等の基準を満たす設備を導入すること

- ・補助率：1/3以内
- ・補助上限額：1億円

いずれの類型も、複数年の投資計画に対応

なお、詳細については以下をご参照ください。

「令和5年度補正省エネ補助金の概要及び省エネ法・定期報告情報の開示制度について」

[https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN\\_jimganews80\\_shoene1\\_seido.pdf](https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN_jimganews80_shoene1_seido.pdf)



## ② 省エネ診断

- ・「具体的に何をやればよいか分からない」との中小企業の声も多いことから、専門家による省エネ診断への支援を強化（来年度は今年度比倍増の案件数を見込む）
- ・省エネの専門家が中小企業を訪ね、エネルギー使用の改善をアドバイス。省エネ診断を受けた場合は、省エネ補助金の加点措置を行っており、診断から設備支援まで、一体とした支援を実施

### 省エネ診断のフロー

事前アンケート・面談：診断員が工場のエネルギー管理者等と面談



ウォークスルー：工場内をまわり、エネルギーの使い方を確認



アフターフォロー：その場でできる省エネアドバイスを実施

※4割の企業で、費用のかからない運用改善の提案が実施できている



省エネ補助金の加点措置

なお、詳細については以下をご参照ください。

「令和5年度補正省エネ補助金の概要及び省エネ法・定期報告情報の開示制度について」

[https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN\\_jimganews80\\_shoene1\\_seido.pdf](https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN_jimganews80_shoene1_seido.pdf)

## 2. 省エネ法・定期報告情報の開示制度

省エネ法では、工場等の設置者、輸送事業者、荷主に対し、省エネ・非化石転換に関する取り組みを実施する際の目安となるべき判断基準および電気の需要の最適化に関する指針を示し、一定規模以上の事業者エネルギーの使用状況等の報告を求めている。

＜省エネ法 定期報告情報の開示制度＞

- ・省エネ法に基づく定期報告情報を企業の同意に基づき開示する仕組みを創設
- ・令和5年度は、東証プライム上場企業等47社から開示宣言
- ・令和6年度より、全ての報告対象者（エネルギー使用量1,500kl/年以上の大規模需要家）を対象に本格運用を開始

### 本開示制度のメリット

- ・企業はすでにある報告書ベースのため負担感なく参画できることに加えて、対外的に法に基づく質の高い情報を発信できる。
- ・投資家などの読み手においては一覧性を持って評価しやすくするツールとして有効活用が期待される。

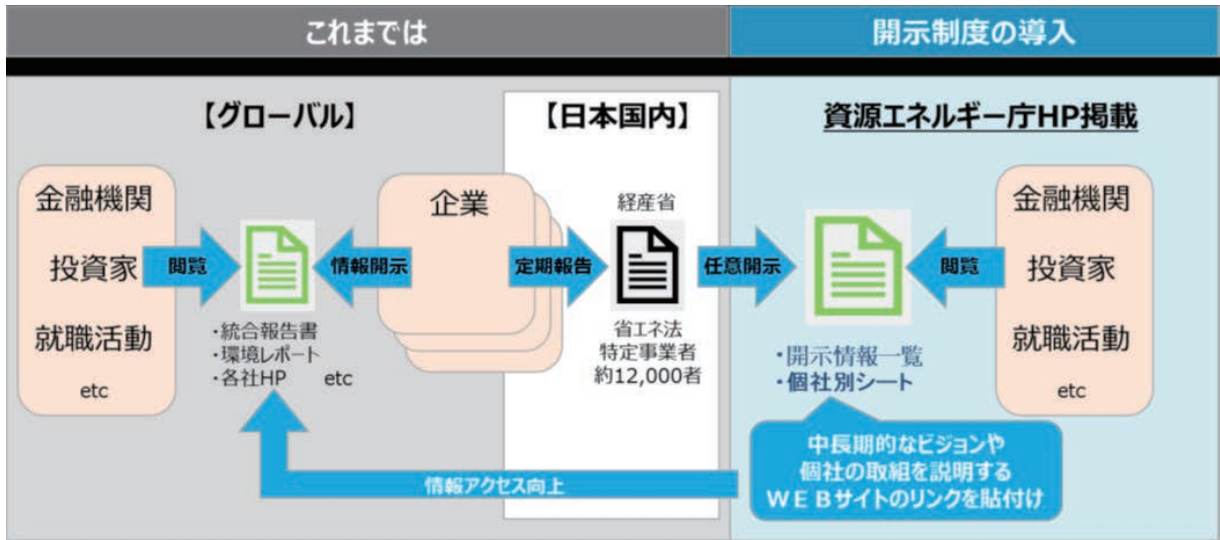
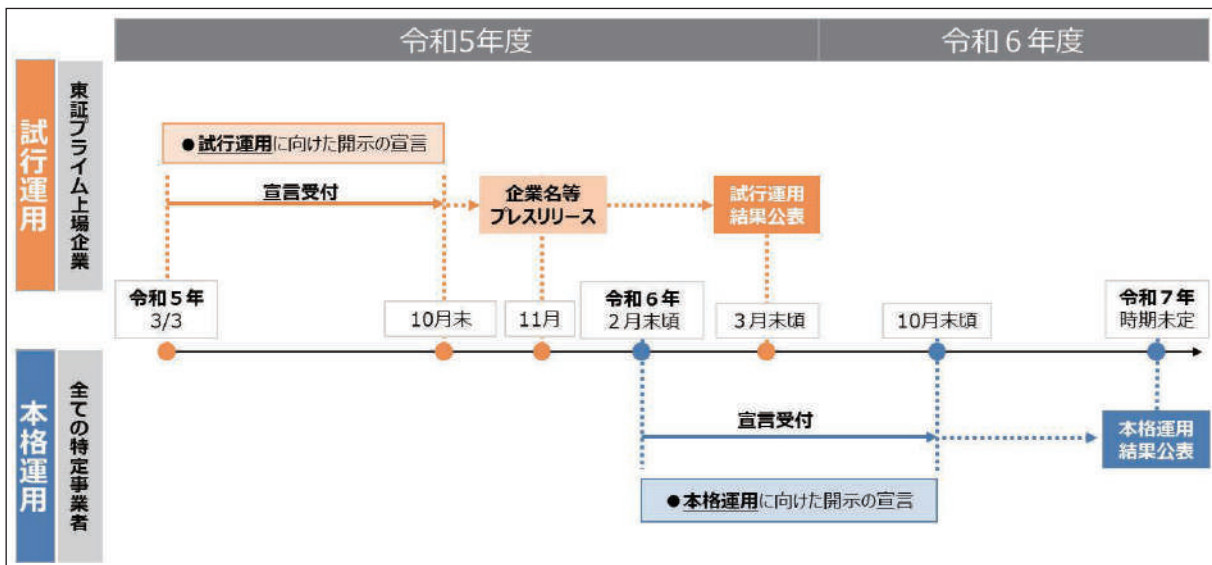


図 定期報告情報の開示制度イメージ

### 3. 今後のスケジュール

- ・ 開示宣言企業のうち、6社に現時点の開示シートをサンプルとして先行公開
- ・ 今後は補助金申請における要件とすることを検討



なお、詳細については以下をご参照ください。

「令和5年度補正省エネ補助金の概要及び省エネ法・定期報告情報の開示制度について」

[https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN\\_jimganews80\\_shoene1\\_seido.pdf](https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN_jimganews80_shoene1_seido.pdf)

「省エネ法・定期報告情報の開示制度の開示シートのサンプル」

[https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN\\_jimganews80\\_shoene2\\_sample.pdf](https://www.jimga.or.jp/files/page/report/jimganews/RJN_jimganews80_shoene2_sample.pdf)

省エネ支援策パッケージについて（経済産業省 資源エネルギー庁）

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/government/package.html](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/government/package.html)

以上

（企画・事業グループ 事務局）

## 2024年賀詞交歓会開催

1月17日、経団連会館にて2024年賀詞交歓会を開催しました。2023年5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、本年は人数制限をせず260名ほどのご出席をいただきました。また、来賓として経済産業省、厚生労働省、特別民間法人高圧ガス保安協会など関連団体の皆様にご出席いただき、盛況のうちに閉会しました。ご出席いただきました皆様には心より御礼申し上げます。



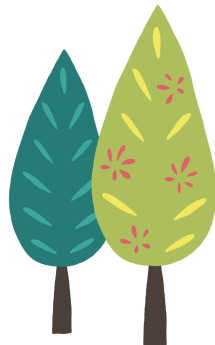
会場の様子

会長挨拶および来賓のご挨拶についてはJIMGAウェブサイトに掲載しています。

◎ 賀詞交歓会挨拶はこちら↓

<https://www.jimga.or.jp/files/news/jimga/20240126gashikoukankai.pdf>

(運営グループ 事務局)



## ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2023年12月15日~2024年2月15日掲載—

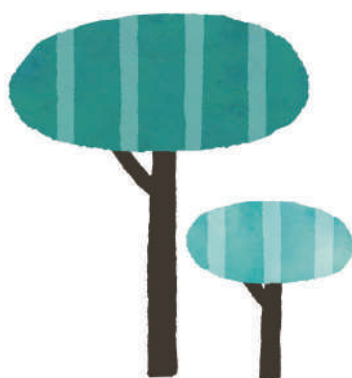
JIMGAウェブサイトでは、会員の皆様に向けた最新の情報をお知らせページにて掲載しています。2023年12月15日~2024年2月15日までに掲載したお知らせをまとめましたので、URLよりご覧ください。最新のお知らせはこちら→<https://www.jimga.or.jp/news/>



- 2024.02.05 2月5日から6日にかけての関東甲信地方の大雪の対応について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1417>
- 2024.02.05 【気象庁連絡事項】冬型の気圧配置に対する警戒と安全確認の対応について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1415>
- 2024.01.29 「液体酸素供給用真空二重配管」発行のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1414>
- 2024.01.26 2024年 賀詞交歓会の様子  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1413>
- 2024.01.25 「医療ガス設備点検整備記録帳作成指針」改訂のお知らせ  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1411>
- 2024.01.23 中小企業の労務費の転嫁対策に関する政労使による意見交換の資料について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1412>
- 2024.01.23 1月23日からの強い冬型の気圧配置に対する警戒と安全確認の対応について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1410>
- 2024.01.19 1月20日から21日にかけての関東甲信地方における大雪について（依頼）（厚生労働省）  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1408>
- 2024.01.19 能登半島地震による特定非常災害被害者の権利利益保全等を図るための特別措置として特定権利利益に係る期間の延長に関する件  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1407>
- 2024.01.16 能登半島地震関連の影響を受けている下請中小企業への配慮要請  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1406>
- 2024.01.09 令和6年能登半島地震により埋没・流出したLPガス容器による事故防止に関する注意喚起について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1404>
- 2024.01.09 能登半島地震に関する医薬品、医療機器取り扱い事業者向けに発行された文章について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1403>
- 2024.01.05 2024年 年頭のご挨拶  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1399>
- 2024.01.01 災害時緊急掲示板「大地震による被害情報」を開設しました→2/9閉鎖  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1402>
- 2023.12.27 JIMGAnews 第79号発行のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1401>

2023.12.19 販売品の年内発送について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1400>

2023.12.18 厚生労働省通知「12月17日からの冬型の気圧配置について」  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1398>





## 新事務局員の紹介



**名 前：** 都田 泰史 (みやこだ あきふみ)

**現住所：** 福岡県福岡市

**出身地：** 兵庫県

**略 歴：** 1989年4月 日本酸素(株)入社。サーモス事業の本社、札幌営業所、北海道支社にて営業、企画、業務に携わる  
2000年4月 ガス事業において物流、営業を関西、中国、九州にて携わる  
2018年10月 九州液送(株)管理部長。2024年問題など労務に従事  
2024年1月 JIMGA 九州地域本部 事務局長

**趣 味：** 音楽全般を聴くことと、楽器の演奏。交響曲を主にクラシックが好きですが、JAZZ、ROCK、POPSのライブにも足を運んでいます。それと体力維持のため10年ほど水泳を続けており、マスターズ大会短水路にもエントリーしていて、この年になって本気の勝負に挑んでいます。

**抱 負：** 民生分野と産業分野での販売、管理、企画、物流等の幅広い業務経験を業界、地域の保安や発展に役立てればと思います。



**名 前：** 長沢 修二 (ながさわ しゅうじ)

**現住所：** 神奈川県綾瀬市

**出身地：** 埼玉県

**略 歴：** 1990年4月 テイサン(株) (現日本エア・リキード) 入社  
2003年4月 営業本部 産業ガス部 グループ長  
2007年1月 大阪営業所 所長  
2010年1月 関西地域本部 営業企画部長  
2016年1月 長崎酸素(株) 代表取締役社長  
2018年9月 イノベーションキャンパス東京 ファシリテーター  
2024年1月 JIMGA 常務執行役員

**趣 味：** 家族で世界遺産を巡ることを趣味としていました。  
家族に犬と猫が加わってからは、移動や宿泊の制約から解放されるためにマイカー旅行が中心となり、現在はキャンピングカーで全国制覇を目指しています。

**抱 負：** JIMGAの一員となり実感したことは、高圧ガスを取り巻く現行法の課題です。  
産業や医療の未来へ足かせにならぬよう、現状にあった法改正を目指し微力ながら貢献したいと思います。皆様のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



## 気ままに コラム



先のサッカーアジアカップ2023でのSAMURAI BLUEの活躍は今一つという結果でしたが、引続き2026 FIFAワールドカップを目標にアジアでの予選突破を目指して頑張ってくれると期待しています！それに続くサッカー日本代表U-23で臨むアジア最終予選が4月後半にあり、これを突破するとパリオリンピック2024です。楽しみですね♪  
その男子代表の前にアジア最終予選に挑むのは、サッカー女子日本代表なでしこジャパンです。本稿執筆時点では北朝鮮とのアウェー戦の前ですが、本誌が発行される頃には期待通りパリへの切符を掴んでいることでしょう！

サッカー日本代表は、男子も女子も世界で戦い、メディアにも多く取り上げられるメジャースポーツとして発展し、良くも悪くも多くの注目を集めるようになりました。サッカーを楽しんでいる者の一人として非常に喜ばしい限りです。

サッカーがメディアに取り上げられる機会が増えたことで、サッカーファミリー競技もメディアで目にするようになってきました。サッカーと同じようにFIFAワールドカップも開催されているフットサルやビーチサッカーなどです。



ビーチサッカー日本代表は今まさにドバイでワールドカップを戦っているところです。予選リーグ最終戦を劇的な逆転で勝利し、決勝トーナメント進出を決め、ベスト16ではブラジルと戦います。

フットサル日本代表は、4月後半にタイで開催されるAFCフットサルアジアカップで、9月のFIFAワールドカップ出場を目指します。



注1)

フットサルもビーチサッカーもまだまだアマチュアスポーツの域なので、サッカーに比べると割とお手軽に!?観戦することができたりします。(フットサルのFリーグは有料観戦になっていますが…) どちらも独特のルールはあるものの基本的な競技特性は同じなので、観戦しやすいと思います。サッカーに比べるとピッチが非常に狭いことや、商業目的ではないことから、本当に間近でプレーを見ることができ、そのスピード感や迫力はテレビで見るワールドサッカーよりも!?見応えがあります。また、ピッチが狭いこの競技は、一つのプレーが得点に直結するので、得点シーンのワクワク感が試合中ずっと続きます!サッカー天皇杯のフットサル版である、JFA全日本フットサル選手権も今まさに開催されています。



注2)

これらトップ選手の活躍とは別に、サッカーファミリー競技にはブラインドサッカーやデフ (Deaf) サッカーなど障害者サッカーもあり、あらゆる人が楽しめるスポーツとして広がっています。

私もデフサッカーの審判として参加したことがあり、笛の音が選手たちに届かないためコントロールするのが結構大変 (汗) でしたが、普段では気付かないことに気付かせてくれ、サッカーを通じた出会いにはいつも刺激を受けています。なかなか接することがないかもしれないかもしれませんが、これらの大会運営にボランティアで参加するなんてことが、視点の変化になったりするかも知れません。色々な方との出会いと関わりに関心と感謝を持って、これからもサッカーやフットサルを楽しんでいければと思っています。

(関東地域本部 村上 良二)



注1) 出典 : <https://www.tasnimnews.com/en/news/2019/03/11/1965998/oman-beach-soccer-team-concentrates-on-iran-coach>

注2) 出典 : <https://www.sportsmirchi.com/fffa-futsal-world-cup-winners/>